nikko am
KAMIYAMA Column

投資ってなんだ!? Vol.3
インフレ+3%のリターンで「潤いのあるくらし」を目指そう

ご参考資料
2024年
3月15日

神山 直樹
チーフ・ストラテジスト

Vol.2では、「潤いのあるくらし」を目指して、“何となく預貯金にしているお金”を“じっくり育てるお金”や“しっかり増やすお金”に振り分けましょう、ということをお伝えしました。今回は、どの程度のリターン（収益）を目指せばよいのか、についてお伝えします。

目指すは「インフレ率+3%」！

「潤いのあるくらし」を送るために、「インフレ率+3%」のリターンを目指していただきたいのです。まず「インフレ率と同程度のリターン」であれば、本来は預貯金にしておけば獲得できるはずです（金融政策の影響で一時的にそうならないこともあるのですが）。ただし、「+3%」のリターンを獲得するには、リスク（振れ幅）を取らなければ難しいのです。そこで、“投資ってなんだ!?”では、専門知識を必要とせずにリスクは取っていきましょう（Vol.2参照）、という考え方をお伝えしていきたいのです。

ではなぜ「+3%」なのでしょう？仏経済学者のピケティ氏が、歴史をさかのぼって世界中の資本（≒リスクを取ったお金）に対する収益率の関係を調べ、「資本の収益率が3%程度高い」ことを示してくれました。つまり、特別な知識などなくても、無理なく目指せる水準と考えてよいでしょう。また、ピケティ氏は“今後も3%程度のリターンが得られる”とまでは述べていませんが、資本を投資に振り向けた人が、総じて高いリターンを得てきた、と述べています。もちろんお約束はできませんが、目標が達成できると期待することはおかしくないと思います。

ところで、リターンとは何でしょうか。それは、リスクを取ったことに対する報酬だといえます。そのリスクを、“勝った・負けた”の賭け事ではなく、投資を通じて世界経済や事業の成長のぶれ（良くなったり、悪くなったり）で取っていただきたいのです。世界経済が今後も成長すると信じるならば、リスクがあるとは言っても「インフレ率+3%」のリターンの獲得も期待できると考えます。

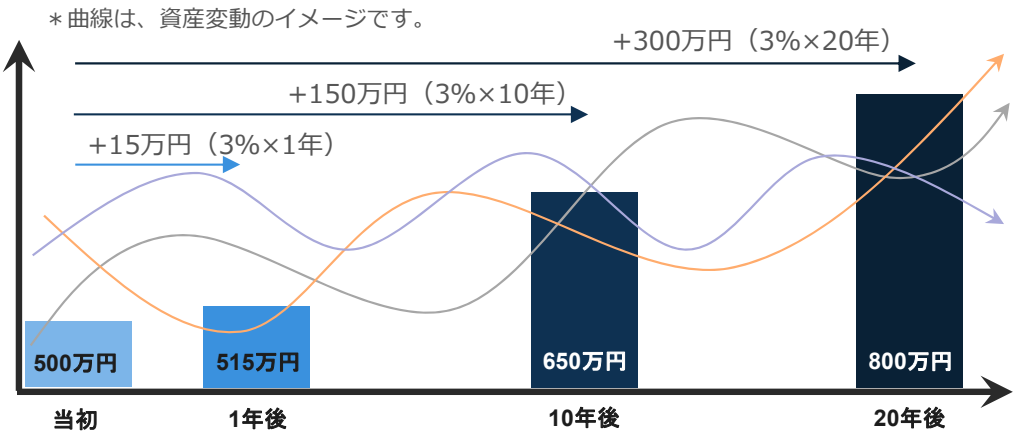
+3%は意外に大きい

1年間で+3%でも、10年間ではザッと30%、20年間なら元本は60%、インフレに勝っているはず。毎年配当などがありそれを再投資すればそれ以上にもなります。もちろん、あくまでも目標ですが、“潤い”のための元手（お金）を作るには、3%は目指すに値する大きさだと思います。

引退までの時間にゆとりがある資産形成世代はもちろんのこと、引退世代が「潤いのあるくらし」を続けるために賭け事ではない投資を検討されてはいかがでしょうか。

元本500万円を収益率3%（年率、単利）で運用した場合のシミュレーション

＊曲線は、資産変動のイメージです。



※上図は考え方の一例を示したものであり、将来の運用成果を約束するものではありません。
また、税金・手数料等は考慮していません。

日興アセットマネジメント

当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。